

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774201798		
法人名	社会福祉法人 親和会		
事業所名	グループホーム末広		
所在地	大阪府茨木市庄2丁目5番1号		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町村受理日	平成26年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「大家族、ゆっくり、一緒に、楽しい、くらし」という理念の下、入居者様と職員と一緒に調理、洗濯、掃除などをすることにより、職員と対等な立場で一緒に生活を送っている。その他、日常生活の中で近隣の散歩や買い物などに出かけることで外部の空気に触れる機会を多く持ち、さらに歩くことで筋力の向上を兼ねた生活リハビリにもなっている。ホーム内で、利用者様それぞれに応じた役割を持って生活を送って送っていただくことで、入居者様がホームで生活をする意義を自覚できるように、また、そのことで結果として認知症の進行の緩和にもつながっている。また、地域の祭りなどの行事に参加することにより、地域住民との交流を深め、連携を図っている。年に2回、春と秋には、遠出の外出を入居者様と企画して、職員とご家族様と一緒に出かけをして、交流を深めるようにしているなど点が当事業所の特徴である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体の「親和会」は昭和47年「社会福祉法人」の認可を得て、地元末広町に保育園を開設した。更に保育園と子育て支援センターを開設した後、我が国の急速な高齢化に対応し地域に貢献すべく平成10年にデイサービスセンター、訪問介護、ケアプランセンターを、そして平成16年9月に地域に密着した「グループホーム末広」を開設した。ホームは阪急京都線総持寺駅から徒歩で5分の閑静な住宅街に広い敷地の中に、高齢者に優しい和風木造平屋建で、玄関、リビング、浴室、居室等広く明るくゆったりとして、飛散防止フィルム付きガラス、誤作動防止対応スプリンクラーの設置等入居者の安全に配慮した生活環境を整えている。この優れた環境の下、管理者と職員は地域住民の協力を得ながら、住み慣れた街で心穏かに「ゆっくり、一緒に、楽しい、くらし」を目指して利用者本位のケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大家族、ゆっくり、一緒に、楽しい、くらしを理念に掲げ、それを具現化して現場で実践できるように取り組んでいる。	ホームの独自理念として「大家族、ゆっくり、一緒に、楽しい、くらしを」掲げ、代表、管理者と職員はその理念を共有し日々のケア時に実践に繋げるよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に所属して、地域の行事(敬老会、体育祭、どんと焼きなど)や地区清掃などに参加させていただき、交流を深めるように取り組んでいる。	自治会に入会し、夏・年末の清掃活動、夏祭り、体育祭、敬老会やどんと焼き等の地域行事に積極的に参加し、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの受け入れ、ご家族様、地域の人たちをホームの行事に招くこと(夏祭りやクリスマス会など)で認知症の方の理解を深められるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状態、ホームの取り組み、外部評価、実地指導等の結果報告及び説明を行い、意見をいただくように取り組んでいる。	2か月毎、第2日曜日に開催している。地域包括支援センター職員、民生委員、家族代表等が出席してホームの状況と課題報告を基に意見・アドバイスを得て運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	用事の際には、顔を出すように、そこで情報交換を行うようにしてる。また、市から派遣されている介護相談員と連携を図るよう取り組んでいる。	市の福祉政策課や高齢介護課の担当者と日頃から連絡を取ってホームの近況報告をし、アドバイスと情報を得ている。介護相談員との連携も取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の理念の中に身体拘束の廃止を含めて実践している。日中は、玄関は出入りを自由にしている。	内部・外部研修を受け、身体拘束をしないケアの実践に努めている。日中は玄関や非常出口も施錠せず、開閉時にブザーで出入りが判るようにして見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修に参加する中で、虐待の防止を図るようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見の制度を利用している入居者様がおられるため、制度等について今後内部研修等を実施して、理解を深めていく予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際には、管理者が説明を行い、疑問点を尋ねながら、懇切、丁寧に説明をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。家族会でのご家族様と入居者様との個別面談を月に1回実施している。	毎月第2日曜日に家族会を開催し、利用者・家族の意見・希望を聴いている。個別面談も月1回するよう心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のスタッフミーティング、週1回の事業所連絡会などで意見を反映するようにしている。	日頃から管理者と職員のコミュニケーションは良く取れている。また毎月の定例スタッフミーティングで聴取した意見・提案を基に本部での幹部連絡会で検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部、内部研修に参加してもらうことや介護福祉士の個か試験の情報等を提供する事で職員のモチベーションの向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修の実施。月1回のスタッフミーティングでの定例学習会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設連絡部会や外部研修に参加して、ネットワークや交流を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してから入居者様と個別面接、相談等を通して信頼関係を深めながら、サービス等を検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居してからも、面会や家族会などを通してご家族様との関係を深め、相談にのるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、相談を受け入れ、よく話を聞いた上で事業所の説明を行い、その他、必要なサービス等についての情報提供を行っていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームでは、できる限り、入居者様と職員で協力して行うことを旨とし、互いに対等な関係を保てるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や行事、外出の機会を通して、入居者様とご家族様と職員で支援をしている。また、当ホームに来所が困難なご家族様には未広通信やホームページを利用して必要な情報をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、入居者様がこれまで使用してきたものなどを引き続き使用していただくようにしている。また、入居者様の知人様の訪問も受け入れている。	知人、親戚の方の訪問も多い。入居前からの行きつけの店や、美容院、理容室へ引き続き行くようにしている。家族との墓参り、外食も多く従前の関係を維持するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内でお互いに役割を持っていただくことで、作業等を協力して行えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ホームの行事等に、ご家族様にはお声掛けをするようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当ホームでは、これまでの生活を基盤にして生活を継続できるように支援している。	散歩や入浴時、1対1で気持が最もリラックスした時に本人の思いや意向を聴き取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査票を基に、入居者様、ご家族様からの情報を収集して、入居者様の生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床、就寝に関しては希望に添えるように取り組んでいる。趣味を考慮したレクなどへの参加を呼び掛けている。また、役割も持ってもらえるように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを通して、入居者様、ご家族様、計画作成担当者、担当介護職員で話し合って作成している。	モニタリングは毎月実施し短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に見直している。本人・家族、看護師、担当者の意見を取り入れ現状に即した計画を作成している。状況の変化があれば、即見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	内部研修を実施。記録の書き方などの指導を適宜行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば、個別送迎などで、外出に出かけて、買い物などに行くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協のボランティアセンターを通してボランティアの方に来ていただき、交流を図り、楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は出来る限り、入居者様がこれまで通院されていた	本人・家族の希望で殆んどがこれまでの主治医で受診している。家族が同行できない時は職員が代行支援している。尚、内科医は月2回、歯科医は週1回、整骨医は週3回訪問診療してくれるので必要に応じて受診できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近隣の診療所の医師、看護師に適宜相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院の医師、看護師と連携を図りながら、必要な情報があれば提供するようにしている。また、退院の際は、入院中のご本人様については、退院に備えて情報を提供していただくようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ、入居者様、ご家族様の思い、医師の見解を確認しながら、話し合い等により支援の方法を決定している。	重度化や終末期に向けた事業所の対応の方針は文章化されている。今後、状況に応じて本人・家族と医師と話し合いを徹底し、且つ職員の支援体制を整えていくよう準備をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習とAED講習を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、いろいろなテーマで避難訓練を実施。年2回、消防訓練を実施。(消防署に報告をしている。)	年2回の消防訓練の他、毎月テーマを決めて防災・避難の自主訓練を行っている。ガラスには飛散防止、もしくはアクリル板への取替え、スプリンクラーの誤作動対策、落下物防止対策や避難経路の明示・整理整頓も徹底している。	日中の災害対応は心配ないが、夜間想定や、近隣住民の協力を得た利用者の見守りなどの訓練も実施され、備蓄も考慮されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は一人ずつ個浴で実施している。トイレ誘導、更衣等の際にも配慮している。	トイレは目立たないように耳元で声かけ誘導し、更衣にも配慮している。入浴は個浴で行っている。個人情報に関わる書類は事務所の鍵のかかる引き出しに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様から時折、食事、おやつ、外出先などの希望を聞いて、行事などの企画に反映している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、入居者様のニーズを尊重するように心掛けているものの、希望に添えていない部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは、自分で選んでもらうように支援をしたり、身だしなみを整えてもらうように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時については、それぞれ役割を持って、調理、準備、片付けを職員と一緒に実施している。	朝・昼は調理済みの配食を受け、夕は届けられた食材を利用者と職員と一緒に調理している。ご飯と汁物はホームで作り、職員が最低1人は一緒に食事している。月1回は希望の多い食事を一緒につくり楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給の記録の実施。水分を取りやすいようにお茶、ジュースなど種類を増やして提供している。栄養管理は、食材会社の栄養士の方がされている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内ケアの実施。週1回の歯科往診の実施。夜間は義歯を消毒実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切なトイレ誘導により、出来るだけ入居者が望まれる排泄の方法できるように配慮している。	職員は「生活リズム表」で排泄パターンを把握・共有し、トイレでの排泄と自立へ向けた支援を行っている。オムツ、リハビリパンツから布パンツへ改善した事例が2～3有る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から散歩や外出などで体を動かしていただいたり、水分をしっかりとって頂く事で便秘の予防を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間については、朝から夕方までの時間帯の中で出来る限り、入居者様の希望に添えるように取り組んでいる。	利用者の希望する時間に合わせ、週3回個別で楽しんでいる。浴室は広く明るく三方向介助できる浴槽である。季節の菖蒲湯、ゆず湯や入浴剤も使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも、臥床、休息が必要であれば、随時、居室で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様のお薬を当ホームにて預かり、職員がセットすることで、全職員が理解できるように配慮している。また、事務所内に入居者様の薬の処方箋をファイルにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り入居者様が望まれるレクリエーション、外出、企画、行事を実施して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ入居者様の希望に添って、買い物、散歩、地域行事等への参加など外出の機会を設けている。外出行事では、ご家族様のご協力を得て一緒に出かけるようにしている。	本人の希望に沿ってスーパーへの買い物や近くの公園・河川敷への散歩、地域行事に参加して外気に触れ季節感を味わうよう支援している。年2回春・夏の外出行事は家族の協力を得て、嵐山、扇町公園や交通科学館等へ遠出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で入居者様の所持金を預かり、必要に応じて買い物などに出かけて使用していただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、事務所の電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや季節ごとの行事の写真の掲示や季節に応じた飾り付けなどで季節感を少しでも実感できるようにしている。	玄関、廊下、リビング等の共用空間は広くて明るい。天井も高く全体にゆったり感がある。リビングの横に掘りコタツのある畳敷きの広い和室があり、利用者がいつでも和めるように工夫している。廊下やリビングの壁にはカレンダーや季節毎の行事の写真・花の貼り絵・塗り絵、習字等が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに和室があり、なじみある入居者様同士もしくは一人で過ごしていただく場としている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、入居者様がこれまで使い慣れてきた品々を使用していただけられるように配慮する。	居室も広く明るい。これまで使い慣れた物や好みの物を持ち込み、従来の生活の継続性が保たれるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いす用のトイレ、浴室、廊下、居室のベッドに手すり等を設置。トイレ使用時のプレートを設置。		